

「誠実・実行・こころざし！」

東伊豆町議会議員

＜総務経済常任委員会＞

須佐まもる



万葉集にもうた
われた「白良浜」



イソブキ便り! 号外! 令和元年11月1日発行

須佐まもる後援会 〒413-0302 静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本 1496-18
Tel&Fax 0557-23-3501 / 080-3458-0925 E-mail:mamo@knossos.jp

facebook いいね! お願いします
Facebookページから情報をゲット!

バックナンバーはホームページで! http://www.knossos.jp/giin_mamoru/face1.htm

相次ぐ台風の被害 生活・観光を直撃

足早に過ぎ去った台風15号でしたが甚大な被害を伊豆半島にもたらしました。9月の定例会は9日からの予定でしたが、開会后すぐに延会の措置がはかられ、私も地域を回りながら被害状況を確認しました。今回は北東風が強烈だったため想定外の被害が出

て、全地域で倒木による停電、屋根が飛ばされるなどの建物被害が発生しました。



農業への影響も大きく、いちご農家では苗の植え付けをひかえた時期に台風が襲来しました。考えられないような強風がハウスの骨組みをへし折りました。

災害対策本部を設置した町の報告では水道課から浄水場取水口を中心とする甚大な被害、防災課から民家の屋根

が飛ぶ被害多数、建設課から倒木・崩土、農林水産課からは管理する港の流木の被害と町の史跡である「海防の松」の倒木、イチゴ農家等のビニールハウスの被害、ワサビ田の被害です。

ひどかったのは町道の崩土崩落で、湯ヶ岡赤川線は崩落による通行止めが一カ所あり、公共災害の届け出がされます。国道135号線の複線である町道は、大川の汐見崎付近で落石被害が発生、心配な浄水場も仮復旧され事なきを得ました。水道業組合さんの“One Team”に感謝です。



湯ヶ岡赤川線の崩落現場。今回の土砂災害は太陽光発電の開発が疑われるケースがありました。ソーラーパネルが吹き飛ばされる被害も多数発生し、異常気象の下での自然エネルギー開発の是非が問われます。

東部総合病院では自家発電により業務を維持、アニメルキーパーズカレッジを準備

中のアスド会館は浸水被害、バナナワニ園・アニマルキングダム等の観光施設への被害も甚大。一部の宿泊施設では休館を余儀なくされ、秋の行楽シーズンに出鼻をくじかれました。

一方、台風19号は予報通りまっすぐに伊豆半島へ突き進み、ぶれずに上陸しました。9月に続く3連休の台風上陸で観光地は泣きつ面に蜂です。白田川は前回の爪痕をえぐるように濁流が襲い掛かり、土のうで補強された保健福祉センターは引き続き危険な状況に変わりありません。私の方では、渡辺周事務所を通じて白田川の早期改修工事を要望しました。



台風15号の被害で福祉センターの側道が陥没しました。県はえぐられた護岸を土のうを施しましたが19号で被害は拡大しています。

災害ボランティアが活動

片瀬地区の自主防災が防災大臣表彰を受けたという報道がありました。東伊豆町の自主防災は毎年のように表彰され、住民の防災への意識は高く軽い倒木は自らの手で除去し、枝葉で埋まった道路を掃いている姿も見かけました。私も関わっている災害ボランティア協会の協賛では、大川地区で起きたみかん畑の土砂崩落現場で作業を行いました。3日目には近隣市町の災害ボランティア仲間が集まってくれました。(9/13)



災害ボラ協の本来の使命は、大災害時にボランティアの受け入れを円滑に進めることです。今後は区の自主防災との連携も視野に入れたいといけません。

★須佐まもるを支えてくれる方 募集中!

南紀田辺市へگریー ンツーリズムの視察

10月8日から10日にかけて和歌山県へ視察に出かけました。

視察第一日目は、田辺市にある秋津野ガルテンにお邪魔しました。こちらは平成20年に地域住民が出資し誕生させた都市と農村の交流を目指したグリーンツーリズム施設で、小学校の跡地に農家レストランや宿泊施設、旧木造校舎を活かした体験棟やお菓子体験工房もあって賑わっています。この日は外国人が家族で泊まりに来て芝生の中庭でくつろいでいました。

こちらでは農業法人代表の玉井様よりみっちり地域おこしの話をうかがいました。ガルテンは「秋津野塾」を母体として立ち上がり、行政を頼らない組織づくりと旧住民・新住民に隔てのない仲間づくり、そして、ここでも女性パワーが光っていると感じまし

た。

いま観光客が足を向けるのは女性を知恵を出している観光地です。東伊豆町も女性がイキイキと発言でき、活動できる環境づくりが大切だと思います。伊豆は残念ながらそういう雰囲気には乏しいです。



意識した地産地消の「みかん畑」農家レストラン。働き生きたお母さんたちが向うに見えのは宿泊施設。シェアオフィスも隣接します。

最近では働き方改革の広まりにより国・県の協力で「秋津野グリーンオフィス」と命名したテレワークの施設を開設しました。大学の研究室として貸し出したり地元出身の起業家が利用するなどガルテンに新たな需要が生まれているようです。

地域共通の課題として企業誘致がありますがそう簡単には行きません。一方で、地方

でもICTの環境も整いつつあるので、働く場所を選ばないテレワークの推進を私は以前から唱えています。下田市では※ワーケーションの推進を掲げましたし、伊豆急行は高原駅にシェアオフィスを開設しました。地方の雇用の足掛かりとして進めたいと思っています。

※ワーケーション：「ワーク（仕事）」と「バケーション（休暇）」を合わせた造語。

白浜町では観光政策 とテレワークの視察

視察2日目は白浜町役場と観光協会を訪問。白浜町の観光の現状と、ビジネスオフィス事業を勉強させてもらいました。

白浜町は人口2万2千人弱、予算規模132億円という町としては大きな規模になります。東伊豆町はバブル期には180万人いた入湯客（中学生以上）がいまは1/3近くまで減りました。当時東伊豆

町より少なかった白浜町は192万人をキープしています。白浜といえば白砂清祥の海水浴場で知られますが、本当に「キレイ」の一言。昭和59年から平成20年にかけて白良浜の養浜事業を行い美しいビーチを保っています。

朝の散歩でも感心したのはゴミが全く落ちていないこと。美化運動については、町が積極的にかかわっているのと、ビジネスオフィスの従業員も社会貢献の一環として行っているとのことでした。ビーチもきれいですが私が注目したのは沿道の美しさ。メイビーチは電柱が地中化され景観の美しさはここからきていると感じました。下水道も整備されているとのことでした。

続いて企業誘致について聞きました。総務省が旗振り役になって「ふるさとテレワーク事業」を呼び掛け、白浜町は積極的に乗り出しました。今ではITオフィスが3つ目を計画されるまでになりました。



ITオフィスにお邪魔して、セールスフォース・ドットコムのお話を伺うことができました。高台の海に面したオフィスには10名ほどの女性がパソコンに向かっていました。地域貢献もプログラムにあります。



皆さん口をそろえて言うのはジャイアントパンダの集客力！中国と連携しながら研究所として確立しています。東伊豆町には希少動物の施設があることから、研究所の設置が私の今後の政策目標です。

社員の中には移住する方もいるようですが、ローテーションしてやってくる社員も多いようです。長い通勤時間から解放され大自然の中で勤務すれば発想も変わってくると思います。地元雇用もある程度あり、また、小学校のプログラミング教育にも一役買っているようです。

3日目はアドベンチャーワールドを視察しました。お目当てはもちろんパンダです。